

教育計画

1. 三浦市の学校教育「三浦らしい教育」で育てたい子ども像

- 心身ともに健康で調和のとれた人間性豊かな子ども
- 郷土と日本の歴史、経済、社会、文化を理解し、郷土三浦を愛する子ども
- 世界の国々を理解し、すべての国民と仲よくできる国際性をもった子ども

2. 本校の目指す子ども像

グローバル化や多様化が急速に進む現代社会において、子どもたちには郷土三崎を愛し、自己の確立と他を思いやる心情を育んでほしいと願う。

様々な情報が日本だけにとどまらず瞬時に世界中に拡散する現代、自分の考えをしっかりとって物事に対処する力、多種多様な文化や考え方を尊重し、よりよい考えや解決策を創出する力の育成が求められている。そのためには、身の回りにあふれている情報から必要なものを取捨選択し、根拠をもって物事を深く追及する知性を養うことが必要である。また、自己の考えを大切にしながらも多種多様な他者の考えも尊重する心情を育成すること、様々な国に興味を持ち、豊かな国際感覚を養うことが大切である。さらに、日常の様々な問題に積極的に関わり解決しようとする行動力、常に学び続けようとする向上心を身につけさせていかなければならない。

次の変化を予測しがたい時代に対応して生きていくためには醸成された人間関係の中で、主体的にお互いの考えを共有し、高め合いながら対話的に深く学び合い、自らの力で問題解決を図っていくことが求められる。

上記を踏まえ、教育課程特例校の指定により新設した「グローバル表現科」の学習を生かしながら、「他者と合意形成を図りながら自ら解を創り出し、生涯にわたって学び続ける子」を本校の目指す子ども像として、次の教育目標を設定する。

3. 本校の教育目標

自ら学び、心豊かにはばたく子

～自ら考え、他者と合意形成を図りながら解を創り出し、
生涯にわたって学び続ける力の育成～

4. 教育目標具現化の方策

○子どもが子どもの言葉で語り合う姿を

- ・学びの三要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」を育むため、「主体的・対話的で、深い学び」が実現した、理想の子どもの姿として掲げる。

(1) 学校運営の基本的スタンス

「小規模校であることを『強み』とした学校づくり」

① 一人ひとりの子どもとしっかり向き合い、授業の質を高めることを教育活動の根幹とする。

- ・基礎・基本の定着を図るとともに、知的好奇心を高め、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業を展開することで、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める。

② 全教職員の主体性や新たな視点を大切に、創造的な教育が展開できる学校づくりを進める。

- ・学年や教科の枠を越え、創意工夫した教育活動を推進し、自ら学び、自ら考える力の育成を図り、確かな学力を育む。
- ・グローバル表現科を通して、郷土三崎を愛し、自他の考えを尊重しながら新しい考えを導き出す力の育成を図る。

③ 基本的生活習慣の定着とお互いの人権を尊重する学級づくりを進める。

- ・「五常の松」の教え（仁義礼智信）を常に心にもち、豊かな人間性と人権を尊重する学級風土をつくる。（いじめのない学級づくり）

④ 家庭・地域との連携を図り、地域とともにある学校づくりを進める。

- ・海業の考え方を基盤に、「あったかい町 三崎」のヒト・モノ・コトとの交流を積極的に行い、教育活動の充実を図るとともに、地域から信頼され、必要とされる学校づくりを進める。

（２）本年度の努力点

① 資質能力の育成

ア．知識技能の獲得＝基礎学力・学習体力

- ・小規模校であることを「強み」と捉え、一人ひとりの児童の学習状況を多面的、多角的に把握しながら学力の三要素の定着、伸長を図る。
- ・計算力の向上や語彙の獲得などの基礎学力を定着させることができる授業づくりを推進する。
- ・学習を持続する体力の向上や学習リズムの構築、学習環境の整備を図る。

イ．思考力・判断力・表現力の育成＝学習の基本・活用・応用

- ・海洋教育や海業を含む地域素材や国際理解教育を教材化した問題解決的な学習や対話的な学習を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める。

ウ．学びに向かう人間性の伸長＝好奇心・向上心

- ・児童の学習実態や興味関心を十分に考慮した教材選定や学習形態、学習展開を取り入れることによって、生涯にわたって学び続ける力の素地を育成する。

エ．世界基準の思考・判断＝グローバル表現科を通して

- ・「グローバル表現科」の新設に伴い、郷土三崎を愛し、多種多様な文化や習慣、考え方を大切にする国際感覚豊かな心情を育む。

② 良好な人間関係の構築

- ・五常の松の教えである「仁義礼智信」をもとにしながら道徳を要に人権教育を推進するとともに、お互いの個性を認め合い、良好な人間関係を育む支持的風土のある学級づくりを進める。

③ 地域とともにある学校づくりの推進

- ・地域に愛され、歴史と伝統のある三崎小学校であることを常に意識し、その期待に応えられるよう「三崎らしさ」を大切にしつつ、家庭・地域と協働した学校づくりを進める。

5. 教育構想

学校教育目標

自ら学び、心豊かにはばたく子

～自ら考え、他者と合意形成を図りながら解を創り出し、
生涯にわたって学び続ける力の育成～

児童の実態

明るく元気であり、校内では人懐こい面はある。決められたことにはきちんと取り組み、ルールを守ろうとすることもできる。一方、自らの考えを深める力や互いに高め合う力、学習体力に不十分な面があると考えられる。また、グローバル化や多様化が進む現代において、多種多様な文化や考えを持つ他者に積極的にかかわり、自他の考えを大切にしながら新しい考えを導き出す態度や力の育成が急務である。

教師の願い

グローバル表現科の新設に伴い、教師の創意工夫を生かした教育活動の中で児童の興味関心を生かした主体的、対話的で深い学びを実現する。また、郷土三崎を愛し、多種多様な考えを尊重できる心豊かな児童、世界基準の思考力や表現力、判断力を兼ね備えた児童を育成する。

学年目標

学級目標

地域・保護者との協働

職員の共通理解・創意工夫

各教科	道徳	総合的な学習	グローバル表現科	外国語活動	特別活動
◎児童の興味・関心・意欲を高め、生きる力を育む ◎基礎・基本の定着を図り、学ぶ喜びを実感させる	◎よりよく生きるための基盤となる道徳性を培うため、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる	◎三崎の自然や文化などに関わる豊かな体験を通して自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら解決していく力を着ける	◎郷土三崎を愛する心情を養う ◎豊かな国際感覚を育む	◎外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する	◎集団活動を通して、学級や学校生活の向上を目指し、互いに協力して自主・自立の高揚を図る
・教科のねらいを明確にし、互いの考えを受け止め、根拠をもって高め合い、深め合える場の設定 ・子どもたちがそれぞれの思いや願いを表出し、共に学ぶ場の設定	・相手の心の在り様を考え、互いに認めあう場の設定 ・望ましい人間としての生き方を学び、身につける場の設定 ・互いの個性を知り、それぞれの人権を尊重する場の設定	・自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を目指す場の設定 ・自らの興味や関心に基づき課題解決したり、主体的・創造的に探求活動に取り組んだりする態度を育てる場の設定	・明らかな根拠をもとに自分の考えをもち、多種多様な文化や考えを受け入れ、新たな考え方を導く力を育てる場の設定 ・世界基準の思考力・表現力・判断力を身に着ける場の設定	・自分からコミュニケーションをとりたいと思わせる場の設定 ・コミュニケーションを通して、自他のよさを再認識する場の設定	・互いの思いや願いを大切に、よりよい人間関係を築こうとする態度を育成する場の設定 ・協力してよりよい生活を築いていくために必要な知識や技能を体得する場の設定 ・自主的・実践的な態度を育てる場の設定

『三崎とつながり、世界とつながる』

～相手を意識した発信と対話を通して伝え合う力を育む～

地域に開かれた学校

6. 学校研究

1. 研究テーマ

『三崎とつながり、世界とつながる』

～相手を意識した発信と対話を通して伝え合う力を育む～

2. 研究テーマの概要

「本校では、児童の「関わり合う力」をコミュニケーション能力と位置づけ、その育成を研究の柱としている。コミュニケーション能力を高めることで、地域の伝統を受け継ぎ、他者と絆を深めることができる考えた。思いや考えを伝え合い、理解し合おうとすることが、これまでの魅力ある伝統を引き継ぎ、さらには国際的で人権感覚豊かな児童に育つと考えた。

本校がある三崎には、水産業や伝統文化、自然、温かな人々など多くの魅力にあふれている。児童には、地域の魅力について調べ、学習を深めていく中で、三崎の良さに気づき、故郷に誇りをもてるようになってほしい。

また、故郷の良さを知るには、他の文化と比較してこそ気づくことがある。そこで、本校の教育課程特例校としての特色を生かし、グローバル表現科の国際理解教育と連携していく。他国を調べたり交流したりする学習を通して、多様な考え方や文化に触れ、多様な価値観を受け止めたり、物事を多面的な視点で考えたりすることができるようにしていく。

地域と世界、双方を知ることで、三崎の良さを再認識し、「三崎っていいな!」「三崎最高!」と自分の住まう地域に誇りを持った自己肯定感あふれる児童を育てていきたい。

3. テーマ設定の理由

本研究テーマについて、以下の3つの点について内容を整理し、精選することとした。

- (1) 本校の児童の実態について
- (2) これまでの学校研究について
- (3) 教育課程特例校により新設したグローバル表現科について

★研究テーマの設定

(1) 本校の児童の実態について

本校は、全学年1学級、全校児童約100名以下の小規模校である。児童は素朴で素直な気質をもち、自分の気持ちや考えを率直に表現することができる。一方で、自分の思いを優先する傾向が見られ、友だちの考えを受け止めたり、互いに調整しながら合意形成を図ったりすることに課題がある。こうした背景には、小規模校であることによる人間関係の固定化が影響していると考えられる。

また、学習に対して前向きに取り組む児童は多いものの、教師の指示を待つ姿が見られることも少なくない。その要因として、「自分の考えに自信がもてない」「間違えることへの不安」といった思いがあり、考えを表現したり、まとめたりする

ことに消極的になる傾向が見られる。これは、学習に対する自己肯定感の低さとも関係していると捉えている。

このような実態を踏まえ、本校では学校教育目標「自ら学び、心豊かにはばたく子～自ら考え、他者と合意形成を図りながら解を創り出し、生涯にわたって学び続ける力の育成～」のもと、主体的・対話的で深い学びの実現を目指している。また、三崎小学校教育ビジョンに基づき、グローバル表現科を軸としたコミュニケーション能力の育成と、総合的な学習の時間・生活科を中心としたカリキュラムマネジメントを推進している。

特に今年度は、研究テーマ「三崎とつながり、世界とつながる～相手を意識した発信と対話を通して伝え合う力を育む～」のもと、自分の思いを伝えるだけでなく、相手の考えを受け止め、対話を通して関係を築いていく力の育成が求められている。これまでの「発信する力」に加え、「相手を意識すること」「関わり合いの中で考えを深めること」に重点を置いた学びの充実が必要である。

(2) これまでの学校研究について

本校ではこれまで、グローバル表現科を軸に据え、総合的な学習の時間や生活科と関連付けながら、教科横断的な学びを通してコミュニケーション能力の育成を図ってきた。特に、ALT との日常的な関わり（ブルックタイム）や海外の児童とのオンライン交流、地域（三崎）の魅力を発信する活動を通して、児童が「伝えようとする力」を高める実践を積み重ねてきた。

その結果、児童は英語や異文化に対する抵抗感が薄れ、相手に分かりやすく伝えようとする姿勢や、自分たちの住む三崎に対する愛着や誇りをもつ姿が見られるようになってきた。また、ジェスチャーや写真、実演など、言語に限らない多様な表現方法を用いて伝えようとするなど、表現の幅が広がってきていることも成果として挙げられる。

一方で、課題としては、発信活動が中心となりやすく、相手の考えを受け止めたり、対話を通して考えを深めたりする学びが十分とは言えない場面も見られた。また、児童の英語力や表現力に差があり、交流の中でやり取りが継続しにくいことや、教員の支援に依存する場面が多いことも明らかになった。さらに、授業準備や交流に向けた事前指導など、教員の負担の大きさも課題として挙げられている。

こうした成果と課題を踏まえ、今年度は研究テーマを「三崎とつながり、世界とつながる～相手を意識した発信と対話を通して伝え合う力を育む～」と設定した。これまで培ってきた「発信する力」を基盤としながら、相手の立場や考えを意識し、対話を通して関係を築き、互いの理解を深めていく力の育成を目指すものである。

今後は、単に伝えるだけでなく、相手の反応を受けて考えを広げたり、問い返したりするなど、双方向のやり取りを重視した学びの充実を図るとともに、児童が主体的に関わり合いながら学びを深めていく授業づくりを進めていく必要がある。

(3) 教育課程特例校として、創設されたグローバル表現科との関連について

本校は、教育課程編成特例校としてグローバル表現科を創設し、国際理解教育を中核に据えた教育活動を展開している。今年度は研究テーマ「三崎とつながり、世界とつながる～相手を意識した発信と対話を通して伝え合う力を育む～」のもと、他文化理解と地域理解を往還させながら、コミュニケーション能力の育成を図っている。

グローバル表現科では、外国の文化や価値観に触れるとともに、自分たちの住む三崎の良さを見つめ直し、それらを相手に伝える活動を重視している。その中で、単に「伝える」だけでなく、相手の反応や考えを受け止め、対話を通して理解を深めることを大切にしている。これにより、児童が多面的・多角的な視点で物事を捉え、様々な人と関わり合いながら学び続ける力の育成を目指している。

具体的な取り組みとして、低学年では ALT とのチャンツや歌、ゲームなどを通して英語や外国の文化に親しみ、異文化への抵抗感を減らすことを大切にしている。中・高学年では、英会話の基礎・基本の習得に加え、海外の児童とのオンライン交流や、三崎の魅力を発信する活動を取り入れ、相手を意識した表現ややり取りの充実を図っている。

今年度は、これまで培ってきた発信力を基盤としつつ、相手の立場や考えを踏まえた対話的な学びへと発展させていくことで、より実践的なコミュニケーション能力の育成を目指していく。

★研究のテーマ設定

以上のような本校の実態およびこれまでの取組を踏まえ、今年度は研究テーマを

『三崎とつながり、世界とつながる』

～相手を意識した発信と対話を通して伝え合う力を育む～

と設定した。

本研究では、生活科・総合的な学習の時間、そしてグローバル表現科を中心に据え、三崎の魅力を見つめ直し、それを相手に応じて発信し、対話を通して伝え合うことができる児童の育成を目指す。

そのために本校では、①他者とコミュニケーションを図りながら、相手の考えを受け止め、やり取りを通して合意形成へとつなげていく力と、②地域三崎の伝統や文化に触れ、その価値や魅力を理解し、相手を意識して分かりやすく伝える力の二点を、「関わる力」と捉えることとした。

三崎の良さに触れ、地域への理解を深めることは、自分の生まれ育った場所への誇りや愛着を育み、児童の自己肯定感の向上にもつながると考える。また、地域学習や海外との交流の中で、相手に伝える場面や、互いの考えを交流する場面を意図的に設定することで、児童は「伝えることの必要感」や「関わることの価値」を実感していくと考える。

今年度は、これまで培ってきた「発信する力」を基盤としながら、相手の立場や考えを踏まえた対話的な学びを充実させ、やり取りを通して考えを深め合うことのできる力を育成していく。さらに、言語や文化の違いを越えて、多様な人々とつながり続けることのできる資質・能力の育成を目指していく。

4. 研究の具体

本研究では、以下のような取り組みを行う。

- (1) 英会話スキルの習得・高学年のオンライン交流
- (2) 学びを発信する場

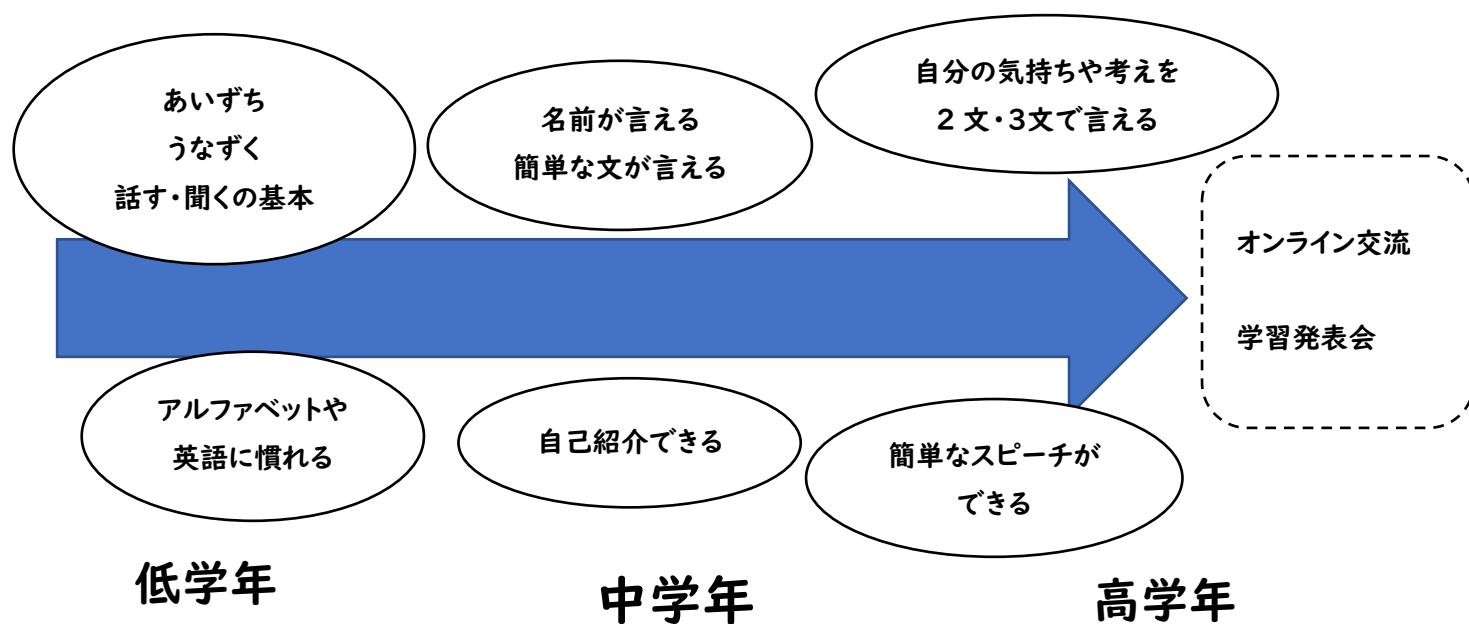
(1) 英会話のスキル習得 及び 高学年のオンライン交流

児童が三崎の魅力を海外に向けて発信し、相手と関わり合いながら伝え合うためには、その基盤となるコミュニケーションスキルの育成が重要である。本校ではこれまで ALT と連携した英会話指導を行ってきたが、今年度は ALT 不在の状況の中で、これまでの実践や教材を生かしながら指導の充実を図っていく。

低学年では、これまで蓄積してきたチャンツや歌、ゲームなどの活動を活用し、英語に慣れ親しみながら「英語で関わることの楽しさ」を実感できるようにする。中学年では、基本的な英語表現や既習のフレーズを用いながら、ジェスチャーや視覚資料を取り入れ、相手に伝わるように工夫する力を育てる。高学年では、単元の学習内容と関連付けながら、自分たちの考えや三崎の魅力をどのように伝えるかを整理し、英語表現や伝え方について確認しながら、相手を意識した発信につなげていく。

また、高学年においては海外の児童とのオンライン交流を実施し、実際に英語を用いたやり取りを行う場を設定する。そこでは、あらかじめ準備した内容を発信するだけでなく、相手の話を聞き、反応したり、簡単な質問をしたりするなど、対話的な関わりを重視する。必要に応じて翻訳ツールや視覚資料を活用することで、言語面での不安を軽減し、児童が主体的に交流に参加できるようにする。

今年度は、ALT 不在という状況を踏まえ、英語そのものの習得に加えて、「相手に伝えようとする姿勢」や「多様な手段を用いて関わる力」の育成に重点を置く。言語に限らず、身振りや表情、資料などを含めた総合的なコミュニケーションを通して、相手とつながり、対話を深めていく力を育てていく。



また、高学年では、google meet や zoom を用いたオンライン交流を行う。交流先は、前年度に引き続き香港と台湾で行う予定である。交流の内容は、交流先との相談ではあるが、互いの文化や習慣について英語を用いて交流することを予定している。現時点では、年間を通して6年生は、香港との交流。5年生は、台湾との交流を行う予定である。

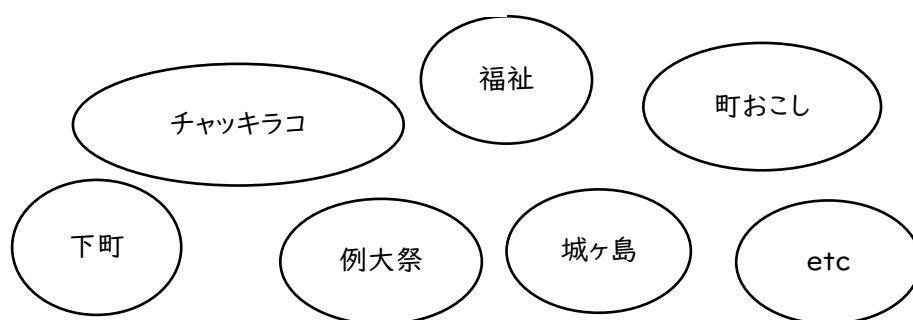
(2) 学びを発信する場

生活科や総合的な学習の時間、グローバル表現科で学習した内容を発信する場として、今年度も学年末に学習発表会を実施する。本発表会を、単なる成果発表の場として捉えるのではなく、「相手を意識した発信」と「対話的な関わり」を生み出す場として位置付ける。児童は、三崎の魅力や地域の特色、外国との比較を通して学んだことを、相手に伝えるように内容や表現を工夫しながら発信する。また、発表にとどまらず、聞き手の反応を受け止めたり、質問に応じたりするなど、双方向のやり取りを通して学びを深めていくことを目指す。このような活動を通して、児童が主体的に地域と関わろうとする姿勢や、他文化への関心を高めるとともに、「伝えること」と「関わること」の双方の力を育成していく。さらに、学習発表会というゴールを設定することで、単元の見通しを明確にし、教師が「誰に・何を・どのように伝えるのか」という視点をもって学習を構想することができる。児童の主体的・対話的で深い学びの実現につながると考える。

昨年度

1年	三崎の祭
2年	三崎の下町(良いとこさがし)
3年	マグロ(茜身)
4年	福祉(盲導犬「抱井さん」)
5年	五常の松
6年	ふるさと三崎(町おこし)

三崎にはまだまだ材が豊富!!



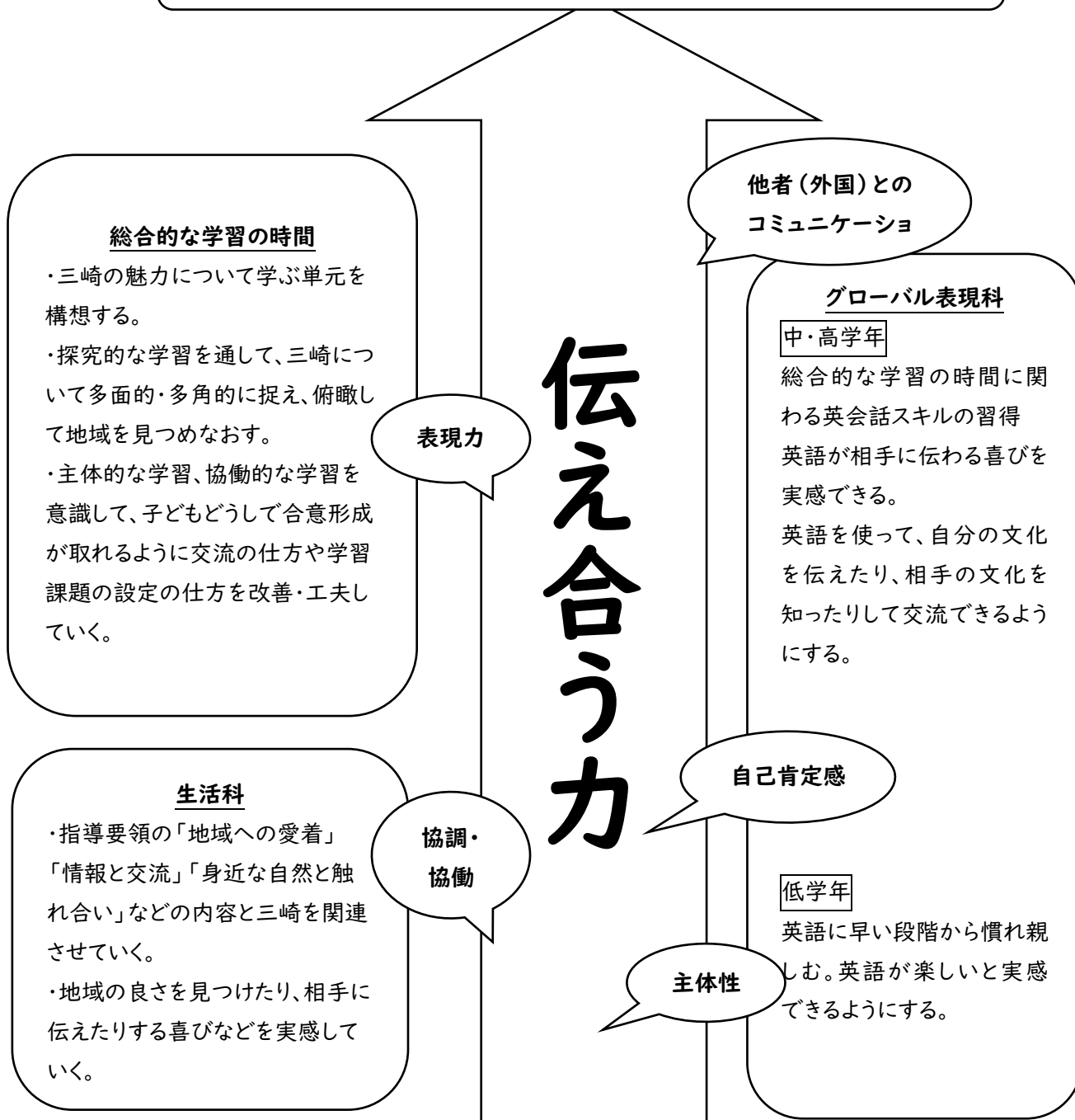
5. 研究構想図

三崎小学校学校教育目標
『自ら学び、心豊かにはばたく子』
～自ら考え、他者と合意形成を図りながら解を作り出し、
生涯にわたって学び続ける力の育成～

研究テーマ『三崎とつながり、世界とつながる』

～相手を意識した発信と対話を通して伝え合う力を育む～

目指す児童像：三崎の魅力を外国に発信できる!!



6. 研究の進め方

今年度の研究では、以下のように進めていく。

① 学年部、研究組織図

学年部で生活科、総合的な学習の時間、またグローバル表現科の単元構想について検討を行う。学期の始めと終わりに各学年部の取り組みの経過報告や実践について検討、協議する研究全体会を行うことにする。また、研究全体会のない月には、座談会を設け、学年部をこえて全員で研究内容や進め方での情報や困り感の共有を行う。

学年部の配置

1・3・6学年グループ；★齊藤 小松原 吉村 細根 柴田 藤野（古閑・辻）

2・4・5学年グループ：★佐藤 新井 山岸 尾渡 井田 貝塚 大野（延廣） ★は各部会の進行担当（敬称略）

（1）授業について

校内で授業を見合う時間を設ける。内容は以下の通り。

- ・学年部のグローバル表現科の授業参観を行い、レポートを作成する。
- ・基本的に学期に最低1回は、参観できるように心がける。

（2）研究全体会 座談会について

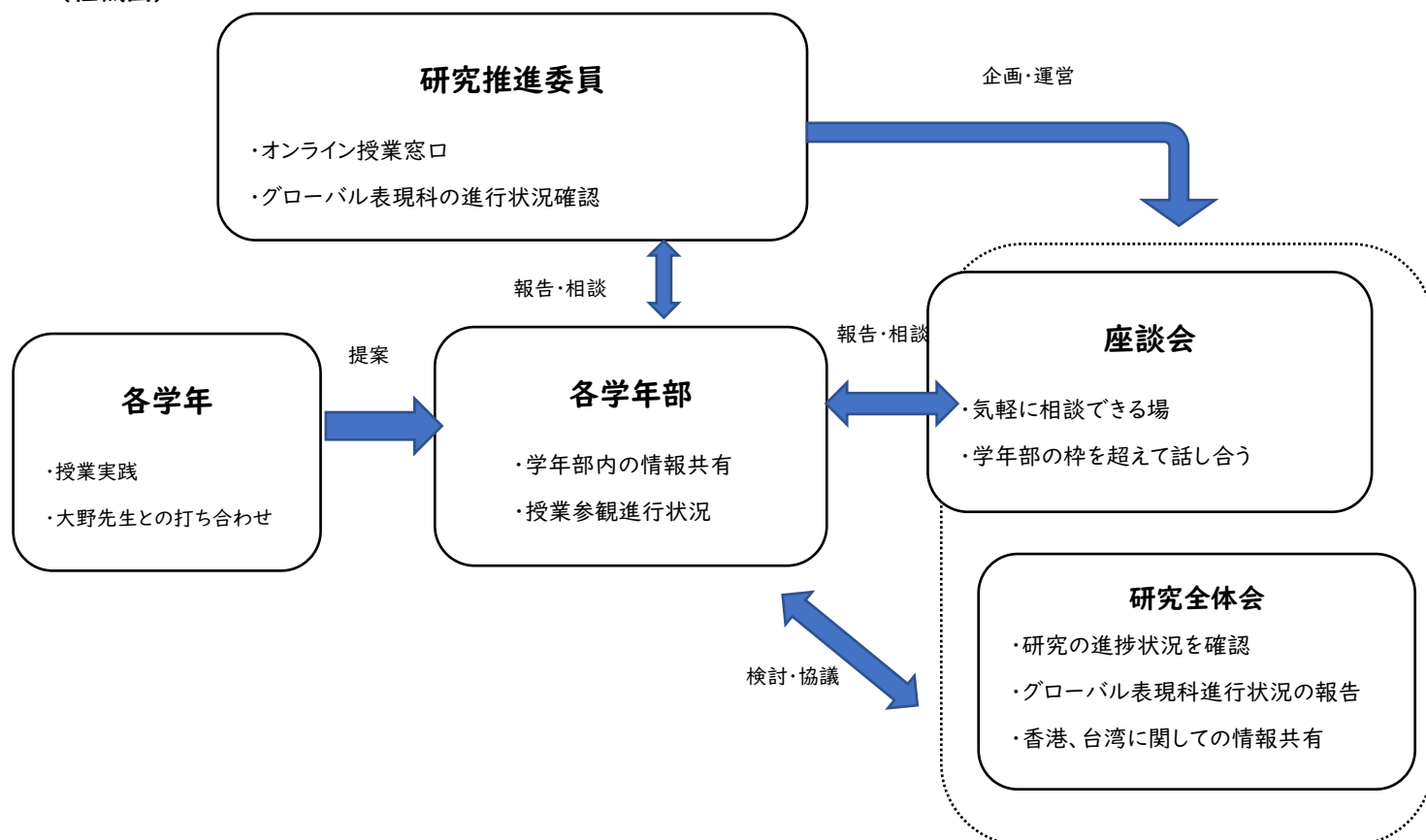
研究全体会⇒研究の提案、協議会

座談会⇒グローバル授業の確認や取り組み方、学年部や学校全体で情報を交換する場

（3）外国との交流について

5・6年の高学年では、香港・台湾とオンラインの交流を行っている。それぞれの学年がどのように交流しているのか情報共有するために交流している時間を学校全体で参観（または、交流の補助）を行うようにしていきたい。日程等の詳細は今後検討していく。

（組織図）



(1) 研推の役割

- ・全体計画の作成／研究全体会の企画・運営・・・(佐藤)
- ・研究全大会「進行(佐藤) 司会(吉村) 記録(齊藤) 資料印刷&作成サポート(尾渡・吉村)」
- ・研究通信の発行・・・(尾渡) グローバル・ALTとの連携・・・(各学年担任)
- ・交流計画(台湾・香港)・・・(5・6年担任・佐藤) ・英語に関する支援・・・(大野・ALT)
- ・研究会の記録写真&資料整理・・・(齊藤)

年間計画(仮)

月	日	曜	内容	備考(予定)
4	9	木	研究全体会(研究年間の提案)	全国学力状況調査(23日)
5	7	木	研究全体会・・・台湾・香港に関しての情報共有 &座談会・・・総合・グローバル表現科の進行確認 香港・台湾との交流準備	全校遠足(20日)
6	11 ? 25	木 金 木	座談会(総合・グローバル表現科の進行状況確認) 香港・台湾との交流 研究全体会(交流内容確認)	学校へ行こう週間(4日～6日) 土曜参観(6日) 個人面談(6月29日～7月3日)
7	23	木	研究全体会(1学期の総括)	5年キャンプ(13日) 水泳教室(27日～29日)
8	未	未	研修会(グローバル関連)	
9	3 ? 25	木 ? 金	座談会(総合・グローバル表現科の進行状況確認) 台湾&香港との打ち合わせ 香港・台湾との交流準備	成績処理期間
11	10 ?	木 ?	研究全体会(交流内容確認) 香港・台湾との交流	
12	22	火	研究全体会(2学期の総括)&座談会(学習発表会の見通し)	個人面談(14日～17日)
1	14	木	研究全体会(学習発表会について)	
2	5 ～ 27		各学年の学習発表会&卒業集会 香港・台湾との交流準備仕上げ	各学年発表会(5日～27日)
3	2 ?	火 ?	研究全体会(職員会議後)今年度の研究の総括次年度に向けて 香港・台湾との交流(最終)	

(2) その他 備考

- ・講師依頼を今後していく
- ・グローバル表現科において、どのような会話スキルが必要になるか、各学年の実践で具体的な言葉や姿勢について集めていく(系統性)